

親鸞さまの

【本文】

釈迦の教 法ましましてど

修まき有 情のなきゆえに

さとりうるもの末 法に

いちにん 人もあらじとときたまふ

【意記】

お釈迦様は 煩悩に苛さいなま
れる人それぞれに応じた教えを説か
れています。

しかし、その教えを実行に移す人が
いないのが現実です。

このような末の世においては

成仏する人が一人もない、とお経
（『大集月蔵経』）に説かれています。

【私の味わい】

一九五七年に社会評論家の大宅壮一さんが、テレビが普及し始めた世相を見て

「一億総白痴化」という指摘をしたそうです。文章を読むことは、自分から能動的活
字を拾い、想像したり理解したりする一方、テレビは画面から流れてくる映像と音声
をぼんやり聞いて受動的、想像することや理解することを発信者側に任せてしま
う。人間の想像力や思考力を「白痴化する道具だ」との趣旨だったようです。

そこから時代は遙かに流れ、現代はテレビの枠を超えたインターネットの誕生で、情
報映像は洪水の如く溢れ、かつ思考、想像の不消化が残らないように分かり易いこ
とが第一に求められます。現在は、先の指摘をさらに超えた状態とも考えられます。

それでは、テレビもネットも無い時代に戻るか、それは現実的ではありません。
お釈迦様ご不在の世、昔と同様に家族を捨て、財産を捨て、仕事を捨てて出家す
る、これもまた現実的ではありません。何故なら、人間は今、現代に生きて、いるとい
う現実から始めなければならないからです。石斧を担いでいた時代に戻るわけでもな
く、お釈迦様が御在世の時代に戻るわけでもないので。

現代に生きる人間は、もしかすると既に思考や、想像することが鈍くなっているかも
しれない。教えが説かれたお経にも全く関心が無いのかもしれない。それでもあなたの
ことが心配だ、必ずや成仏道を歩ませよう。そう誓い、願う唯一の仏様が、
まします。

その仏様こそ南無阿彌陀仏様なのだ、と聖人はお勧めなのです。

（悠水）